

「木造先導プロジェクト 2020」採択プロジェクト(第2回) 一覧

No.	プロジェクト名称			講評 【普及性について特に評価されたポイント】 ※普及促進枠として評価された場合のみ記載。今回は該当なし。
	提案者		用途	
	建設地	階数		
	延べ面積		補助限度額	

一般建築物

1	大子町新庁舎建設事業			<p>新しい町役場庁舎を木造軸組構法により建設するプロジェクト。屋根の下に広がる木材架構が外部からも視認できるような構造であり「地域産材を活用した庁舎」であることをアピールした計画。</p> <p>「方杖構造」を耐震要素として繰り返し配置し、内外から構造材料としての木材が見える意匠としている。防火面では、「壁等」により 3000m² 以内になるように区画するとともに「燃え代設計」による準耐火建築物とし、木材のあらしにしている。軒の出を約2.5m 確保し外周部の雨掛りを軽減するなどの耐久性にも配慮している。建物を構成する構造部材は製材、集成材、接着重ね材の使い分けに配慮しながら全てに地域産木材を活用している。</p> <p>木材活用や接着重ね材使用について、設計・施工における課題とその対応策を検証し、見学等で公表する計画としており、設計・施工技術についての普及・啓発が期待できる。</p>
	茨城県大子町			
	茨城県大子町	庁舎		
	4,230 m ²	地上 2 階	97,631 千円	
				
2	(仮称)恵比寿西1丁目計画			<p>9階建て鉄骨造のテナントビルに、木材を活用した方杖を耐震要素として組み合わせて建設するプロジェクト。</p> <p>鉄骨造の柱梁フレームの中に、木の耐震方杖架構を挿入する。あらしとした方杖架構は地震力の一部を負担しており、防耐火面では鉄骨と木部材の取り合いディテールについて、1時間耐火・2時間耐火それぞれの加熱実験で検証することとしている。屋外に木材を使用する箇所は雨掛りのない箇所に限定し、木材保護塗料を塗布の上、定期的なメンテナンスを計画するなど耐久性に配慮している。また、鉄骨工事と木工事を切り分けて施工できるように、施工が合理的に行えるよう配慮している。</p> <p>恵比寿駅に近く、多くの人々の目に触れやすい立地で、木架構があらわれるファサードなどの視認性が高く、施工時の現場見学会、及び、建築学会等での先導技術の発表を予定するなど、設計・施工技術の普及・啓発が期待できる。</p>
	サッポロ不動産開発株式会社			
	東京都渋谷区	事務所、店舗		
	515 m ²	地上 9 階	19,025 千円	
				

3	奈義町立こども園建設工事			<p>老朽化した町内の2つの幼稚園、1つの保育園を統合し、園児数250名の幼保連携型認定こども園を、木造・RC造・S造の混構造で建設するプロジェクト。木造屋根にはCLT・集成材・製材を組み合わせたストレススキンパネル(組立版)構造として無柱の木質空間を構成する。ストレススキンパネルの下弦材にはCLTを、上弦材には集成材を用いており、上部の屋根合板を施工するまでは屋根版内での設備等の施工を可能とするなど、施工性にも配慮している。防耐火面では、燃えしろ設計(屋根:30分)によるCLTあらわし仕上とし、45分準耐火の要件に対して1時間準耐火建を実現する計画としている。</p> <p>設計・施工時の技術、及び整備コストを竣工後に公表する予定とし、また施設は町の新たな子育て・教育政策の一環として公開される予定で、設計・施工技術や木材利用施設としての普及・啓発が期待できる。</p>
	岡山県奈義町			
	岡山県奈義町	幼保連携型認定こども園		
	2,760 m ²	地上 1 階	156,186 千円	
4	東京藝術大学国際交流拠点(仮称)整備事業			<p>上野キャンパス内のコミュニティサロンや食堂等を有する5階建ての施設を、下層部分を鉄骨造、上層部分を木造として建設するプロジェクト。</p> <p>3階以上の鉄骨部分と一部の木造部分の床にNLTを採用する計画としている。NLTの採用にあたっては人工気象室を活用し竣工後の変位等を確認し、NLTの設計・施工方法の確立を目指している。また、水平力を負担する木ブレースをメインファサード面に採用し空間の木質化を図っている。木造とすることによって工事中の騒音・振動を軽減し、近接する音楽学部の校舎に配慮した施工計画としている。</p> <p>「国際交流拠点」として、大学を訪れる国内外の人々への日本の木造建築技術のPRの場ともなる。また、工事中及び竣工時に見学会を予定しており、設計・施工技術の普及・啓発が期待できる。</p>
	国立大学法人東京芸術大学			
	東京都台東区	学校		
	1,484 m ²	地上 5 階	56,740 千円	
5	ST-PJ			<p>電子部品組み立て工場を、鉄骨造と木造の混構造で建設するプロジェクト。耐震壁、防火被覆、屋根、マリオン等としてCLTを活用し、鉄骨造が一般的な大規模工場建築の木造化に取り組んでいる。</p> <p>CLTの耐震壁はボルト接合として容易に着脱できるようにして、工場の拡張性の確保に対応している。防火面では、CLTによる鉄骨柱の防火被覆により30分準耐火性能を確保し、内装制限がかかる箇所には、塗装されたCLTが難燃材料又は準不燃材料の大臣認定を取得することで工場内の木質化を図る計画である。屋根のCLTは材幅1.0mに規格化し、CLT同士を繋ぐビスを立体的斜め打ちとするなど施工性に配慮している。</p> <p>本計画による構造・意匠面の効果について、日本建築学会での発表が予定されており、設計・施工技術についての普及・啓発が期待できる。</p>
	沖電気工業株式会社			
	埼玉県本庄市	工場		
	20,534 m ²	地上 3 階	96,836 千円	
				

6	特別養護老人ホーム 朝老園 改築工事		
	社会福祉法人朝老園		
	福岡県福岡市	特別養護老人ホーム	
	4,786 m ²	地上2階	119,464 千円
			<p>2階建て大規模特別養護老人ホームを木造軸組構法により建設するプロジェクト。</p> <p>ヒノキ接着重ね材を束ね方向に2次接着して大断面化し柱、梁に活用する計画。接着重ね材や、それを二次接着した材料の燃え代設計に必要な燃えしろ寸法は確立されておらず、本プロジェクトでは1時間準耐火構造に必要な寸法の検証を行い設計に反映させると共に、本プロジェクトを燃えしろ設計の標準化に向けたプロトタイプと位置づけている。また、「壁等」により3000m²以内になるように2つに区画し、延べ面積約4800 m²の建築物を実現している。外装は、木材の構造体を露出することは避け、構造体の表面に板張り(塗膜等で保護)し、耐久性に配慮した計画としている。</p> <p>燃えしろの性能評価試験結果や、大断面部材の施工技術の検証を行い公表することを予定しており、設計・施工技術についての普及・啓発が期待できる。</p>